

## リーダーシップと向き合う旅

千葉県千葉市 久保田健太郎

ポートランド調査の一番の成果は、市民リーダーというもの、まちづくりにおけるリーダーシップというものが、以前よりも明確にイメージできるようになったことである。

もちろん、他にもたくさんのことを学んだが、衝撃のような感覚を覚えたのは、このリーダーシップに関する経験であった。

まずは、アーバングリーンのチップス氏である。彼は、ライトレールの延伸に際して、延伸に反対意見を持つ住民をも巻き込んで自分たちの新駅をデザインし、実際の計画にその意見を取り入れることに成功した。

彼から学んだのは、とにかく声を上げること、多くの人に自分の考えを伝えること、そして楽しむことが成功の秘訣だということだ。声をあげて、楽しみながらコミュニケーションをとることで、ある時点で成功を確信したとのことであった。

スケールは小さいが、ポートランド調査の前後で、個人的にも同じような経験をした。

「私の政策提言」にも関係するが、都市部における地域包括ケアシステムを目指す中で、地元の医療介護分野の多職種が集まって、「緩く楽しく」語り合う場を作りたいと考えていた。ある時、今年の抱負を聞かれて、何人かの仲間の前で「多職種が緩く楽しく語り合うイベントを開催する」と、思わず宣言してしまった。その後も、開催宣言をしてしまったことから、機会があるごとに「多職種イベントをやりたい！」と言い続けていたが、段々と賛同者や協力者が現れ、そのうちにイベントを開催できると確信できるタイミングがあった。

そうして、週末学校でも講演した村上智彦氏を北海道からお呼びし、ポートランドから帰国直後に、「メディカルラーニングバー千葉」というイベントを開催することとなった。

直前にポートランド調査が予定されていたことから、準備等を含めて、かなり不安な面があったが、実際には、他のメンバーが主体的に動いてくれたことで、50名近くの参加者により、とても盛況なイベントを開催することができた。

ピアストーミング（ビールを飲みながらのブレインストーミング）の際に、チップス氏に対して「あなたの話を聞いて、自分のやりたいことが明確になった。早く日本に帰って、とにかく第一歩を踏み出したい。」と自分の想いをぶつけた。そして、その温度のまま日本に帰って、多職種イベントを開催し、チップス氏の言う「楽しくコミュニケーションする」ことを実体験することができた。

そして、もう一人は、市民活動家のエレノア氏である。エレノア氏とは、イノベーションラボで同じグループとなったが、議論の中で、ステークホルダーには、声を発することのできない、自然・環境・子供・弱者なども含まれるという話を聞いた。このことを聞いたときに、自分の中に衝撃が走った。それまでは、ステークホルダーというと、ある程度組織化されていて、声が大きくて、影響力のあるものであると思い込んでいたからである。

声を出すことのできない存在そのものがステークホルダーであるという考えは、本当に新鮮であった。そして、その時点で、市民リーダーというイメージが、瞬間的に明確になったのである。

さらには、ポートランドプランの策定プロセスという文脈の中で使われる「コミュニティ」という言葉の意味も、不正確かもしれないがイメージが明確となった。

つまり、声なき存在の声を拾い上げて、そのような存在をまとめ上げて、彼らに代わって代弁するの

が市民リーダーであり、そして、コミュニティとは、このようなリーダーシップの働きで集団化した存在ではないかとの仮説が頭に浮かんだのである。

このような仮説を頭の片隅において、残りのポートランド調査を終え、最終日のフェアウェルパーティで、エレノア氏と再び話をする機会を得た。その際に、この仮説をエレノア氏に投げかけたところ、まさに同じ思いで活動しているとの答えを得た。

ポートランド調査の出発前に、本市の協働事業提案制度により、ある住民団体から、医療と介護の連携に関する活動の提案を受けた。何度か、お互いの想いを話し合うことで、この住民団体とは、解決すべき課題を共有することはできた。しかしながら、住民団体が主体的に課題解決を担うには、団体の組織力や経験が十分でない状況であった。

帰国後、この団体と話をする機会があり、ポートランドで抱いた市民リーダーのイメージを頭に浮かべながら、「一緒に想いを形にしていましょう」と素直に伝えることができた。市民リーダーのイメージを共有しながら、市の正式事業にならなくても、共にリーダーシップを発揮できるよう取り組んでいきたい。

チップス氏とエレノア氏との交流が、ポートランドでもっとも印象的な出来事であった。通訳を介しての会話であったが、彼らの活動を肌で感じ、それを受けての想いを伝えられたことは、本当に素晴らしい経験であった。ポートランドでのインプットを、日本でアウトプットできるように心がけたい。